

かな部

北川詩雪

二〇二一年の秋に、書道が文化庁の登録無形文化財として登録されました。伝統的なわざの保存と次世代への継承に関する活動が一層進んでいくことが期待されます。その中で「漢字、仮名、漢字仮名交じり、篆刻の分類に応じた書表現を行うこと」とあり、それぞれの表現が違うことが示されています。この条幅研究では、多分類に沢山の方がご出品いただいています。皆さんの意欲と熱心さにも感じます。当会のセミナー等を活用して頂き、是非それぞれの表現とわざを習得していただきたいと思えます。「百聞は一見にしかず」が体感できます。

かな部 条幅課題

A わが心ゆたかにさめて朝の日の

かがよふ如し牡丹花さく

(高村光太郎)

・わたしの心は豊かに冴えざと覚めて、朝の日がかがやいているようだ。傍らには牡丹の花が美しく豪華に咲いている。

B 若竹や暁の雨宵のあめ

(与謝蕪村)

・今年竹は暁方の雨にぬれ、また宵の雨にぬれて色を増し、その風情を見せることだ、の意。

(しめきり).....六月十七日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※出品資格：五段以上。A・Bの両方同時に出品可。

※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

(選評)

師範・準師範の部

珠房君 小ぶりながら、清澄な空気感が生まれた秀作。

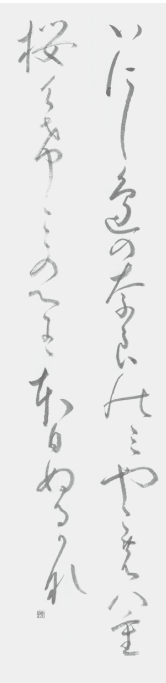
翠溪君 圧巻の五行構成。行の響きあいが見事らしい。

紅華君 画数の多い文字群を、強い線と連綿の工夫で魅せている。

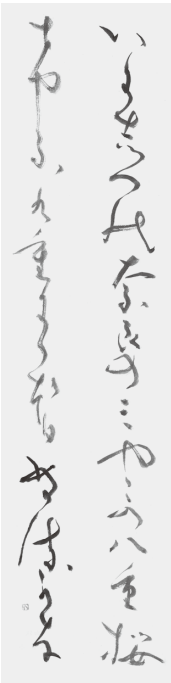
昇陽君 手慣れた散らしで見事。大らかな字形と筆致にも好感。

照華君 左上の余白が美しく、三行に上手く収めて秀逸。

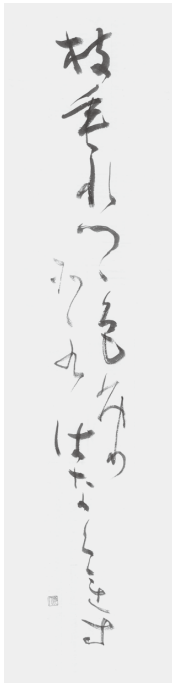
(助教以下の部)



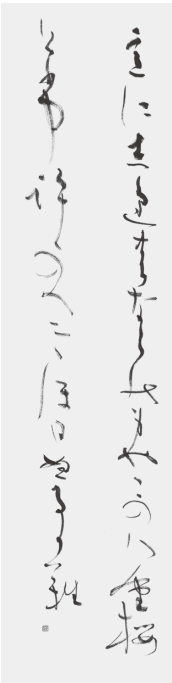
大らかな筆の動きと自然な流れに惹かれる。冒頭は半字下げる。



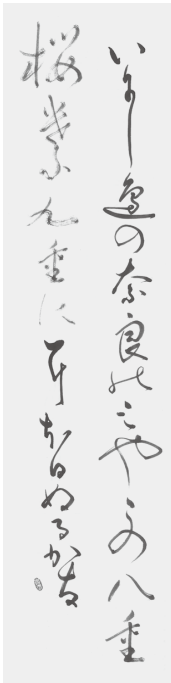
「奈・桜・流」等の右下がり安定感のある文字造形が効果的。



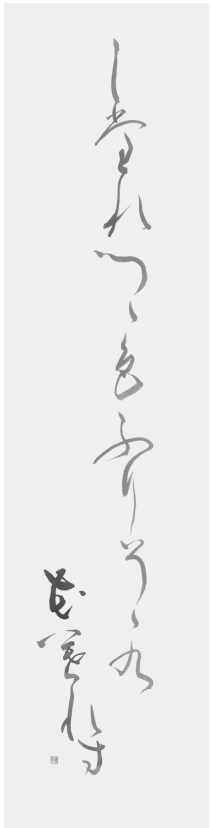
湯筆での線に熟練の技を發揮して堂々の作。



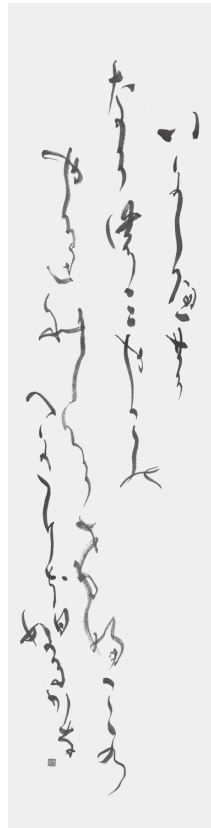
冴えた線で達者な書き振り。リズムミカルで軽快な作となった。



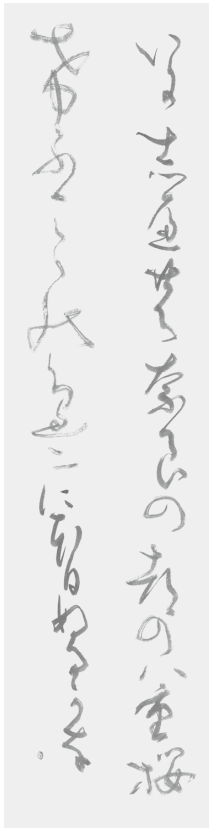
文字の大小が工夫されていて、不思議な魅力を発している。



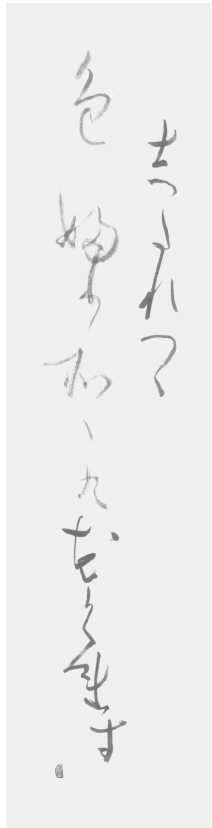
森川珠房



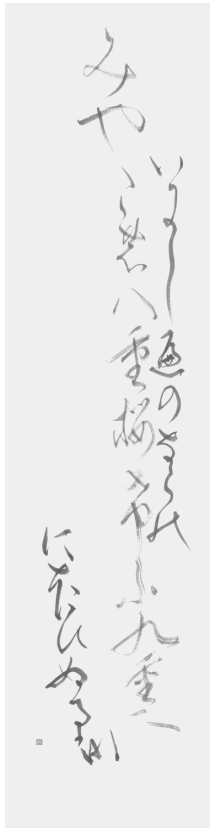
高井翠溪



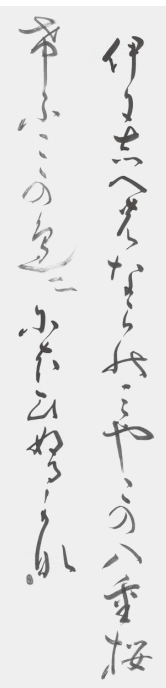
後藤紅華



永田昇陽

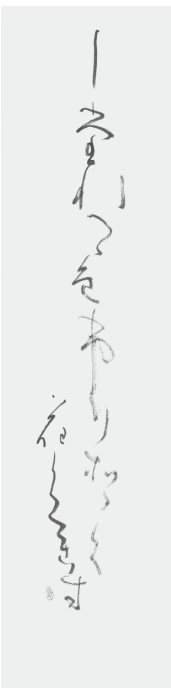


寺尾照華



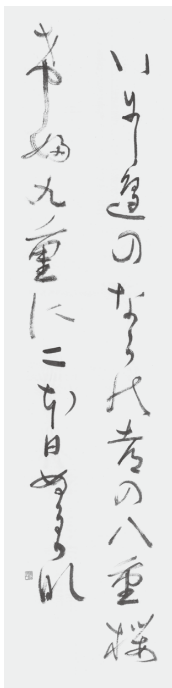
簡素にすっきりとまとめて好感。「八重桜」を柔らかな線に。

与十田麗峰



懐の広い文字を効果的に配置して明るい作。二行目を少し下へ。

山下紀子



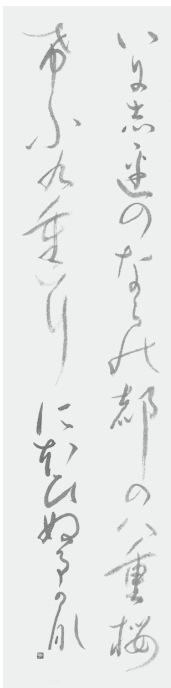
直線的な力強い線が際立ち、作品効果を上げている。

橋佳緒里



二行目上の大小変化の大胆さに感心。墨色も美しい。

今井優美子



気負わず素直で心地よい。一行目下部の「八重桜」は小さく。

青山一子